

なぜ英語が話せないの

(23)

五十四年に始まった大学の共通一次試験にヒアリングを出題、ヒアリングを導入する場合、最大の難点は「どうすれば受験生が聞き取れるか」ということだ。大の難点は「どうすれば受験生が聞き取れるか」ということだ。

どの差をどう解決するか。百人九六軒(二十八道県)でヒアリングテストを行っているが「騒音公害がひどい大都会であり、悪かったりの差があり、設

入試形式の改善を

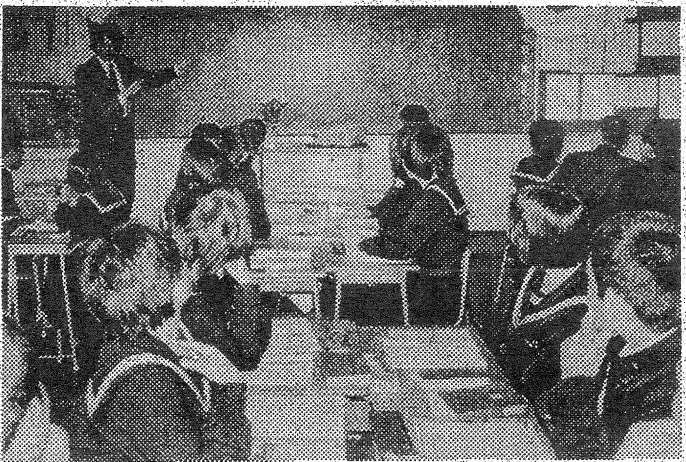
難点は「公平なテスト」

が、大学入試センター(東京)は、現在もプロジェクト・チームを編成して、この問題を検討している。

は、後方座席と前の座席とでは、聞こえ方が違つてという問題が生じ、受験場の大小は統一しない。騒音問題だけを例にとっても、このように難しい問題を

同チームは、ヒアリング実施に伴い派生する種々の問題を洗い直し、全国九十四の国立大学長で構成する国立大学協会に結果を答申。国大協は、これを受けてヒアリング実施の可否を判断、最終的な結論を下す。

「騒音公害がひどい大都会であり、悪かったりの差があり、設けられている。また、難問山積のヒアリングを導入の観があるが、福田昇智大など若干校に限られているのが現状。西南学院大学(福岡市)でも「受験会場の大小で改善されなければ、わが国の英語はいつまでたっても実用英語とほならないだろう」と強調し



せっかくの授業での生きた会話も入試が改善されないとなかされない